



パシフィックシステム株式会社

パシフィックシステム株式会社

# パシフィックシステム株式会社 2022年3月期 決算説明会

2022年6月17日

- **企業概要**
- **2022年3月期 決算概況**
- **2023年3月期 業績予想**
- **23中期経営計画の進捗状況と  
今後の取組み**
- **トピックス（当社商材のご紹介）**



## 企業概要

社名	パシフィックシステム株式会社
本社	埼玉県さいたま市桜区田島8丁目4番19号
設立	1980年8月
資本金	7億77百万円
従業員	634名(連結：2022年3月末)
上場先	東京証券取引所 スタンダード (証券コード 3847)
事業内容	製造業、流通業、金融業等向けの情報サービス事業
連結子会社	株式会社システムベース 岩手県内の企業及び自治体向けを中心に当社と連携した情報サービス事業を行う

## 沿革

西暦（和暦）	月	概要
1980年（昭和55年）	8月	秩父セメント(株)(現太平洋セメント(株))システム部が分離独立し、東京都文京区にシステム総合開発(株)(現当社)を設立。情報サービス事業を開始。
1983年（昭和58年）	6月	秩父セメント(株)の子会社で情報サービス事業を営む(株)ジェスと合併。
	9月	熊谷事業所、営業所(現熊谷センター)を埼玉県熊谷市に開設。
1988年（昭和63年）	12月	通商産業省(現経済産業省)システムインテグレータ登録・認可。
1989年（昭和64年）	6月	秩父セメント(株)の子会社で計量制御システム、生産管理システム等の製造販売を営む(株)ジェムと合併。
1991年（平成3年）	8月	大阪支社(現西日本支社)を大阪府大阪市淀川区に開設。
	9月	日本初のGPSを利用した車両動態監視システムの販売開始。
1996年（平成8年）	4月	秩父小野田(株)(現太平洋セメント(株))の子会社で情報サービス事業を営む(株)オークスの営業全部を譲り受け。
1999年（平成11年）	10月	太平洋セメント(株)の子会社で情報サービス事業を営む(株)アイシスと合併し、商号をパシフィックシステム(株)に変更。
2002年（平成14年）	7月	当社の子会社で計測機器、制御機器等の開発、販売等を営む(株)エステックスと、当社の関係会社で情報サービス事業を営むエス・エス・ケー販売(株)とが合併し、パシフィックテクノス(株)(当社連結子会社)が発足。生コンクリート関連情報サービス事業を同社に集約。
2004年（平成16年）	9月	本社を東京都中央区に移転。

## 沿 革

西暦（和暦）	月	概要
2005年（平成17年）	11月	ISO14001(環境ISO)の認証を取得。
2007年（平成19年）	4月	ジャスダック証券取引市場（現東京証券取引所 JASDAQ市場）へ株式を上場。
	10月	(株)システムベース株式取得により子会社化。
	12月	西日本支社を大阪府大阪市西区へ移転。
2009年（平成21年）	3月	ISO9001(品質ISO)の認証を取得。
2010年（平成22年）	1月	(株)ソーシャルネットから事業を譲り受け、中部センター(愛知県名古屋市中区)を開設。
2011年（平成23年）	1月	東京オフィスを東京都港区に開設。
	2月	子会社パシフィックテクノス(株)と合併。 本社を埼玉県さいたま市に移転。
2012年（平成24年）	3月	ISO27001（情報セキュリティISO）の認証を取得。
2017年（平成29年）	8月	東京オフィスを東京都中央区に移転。
2022年（令和4年）	4月	東京証券取引所の市場再編に伴い、スタンダード市場に移行。

## 事業所展開 (主要顧客対応のためサービス拠点として展開)



## 組織図 (2022年4月1日)





## 当社の事業区分（セグメント）

### システム運用・管理等

- ユーザシステムの運用・管理サービス、データセンター、パソコン教育、保守サービス等

### システム販売

- 画像処理システムや生コンクリート業界向けシステム、医療システム等のシステム商品の販売
- ネットワーク構築等のインフラサービス

### ソフトウェア開発

- 製造業・流通業・金融業等幅広くアプリケーションシステムの受託開発業務
- 製造業向けにERP事業のコンサルとシステム開発

### 機器等販売

- パソコン、サーバ及び周辺機器とパッケージソフトウェア等の仕入・販売



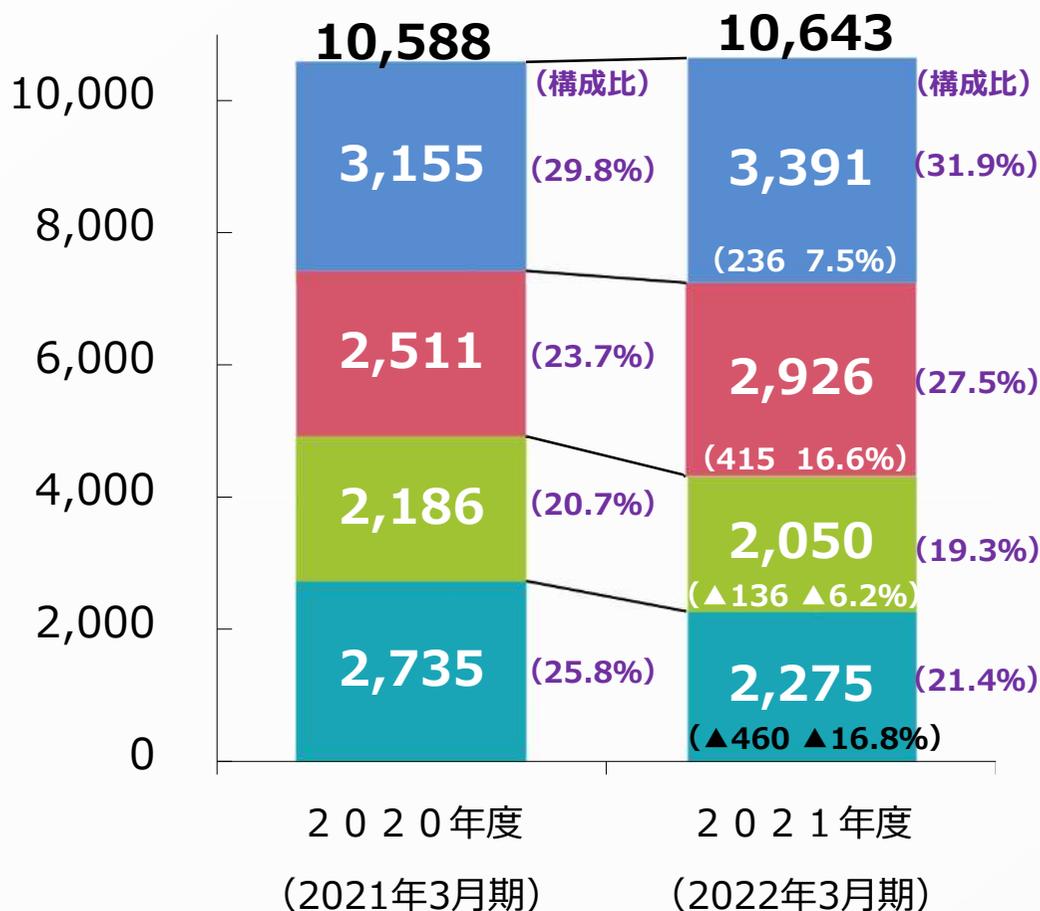
# 2022年3月期 決算概況



決算年度 (単位：百万円)	2020年度 (2021年3月期) (A)	2021年度 (2022年3月期) (B)	前期差異 (B-A)	増減率
売上高	10,588	10,643	55	0.5%
売上総利益 (利益率)	2,481 (23.4%)	2,618 (24.6%)	137	5.5%
販売管理費	1,759	1,855	95	5.4%
営業利益 (利益率)	721 (6.8%)	763 (7.2%)	42	5.8%
経常利益 (利益率)	735 (6.9%)	771 (7.2%)	36	4.9%
当期純利益 (利益率)	393 (3.7%)	521 (4.9%)	127	32.4%

連結 事業4区分別売上高の前期比

[単位：百万円]



システム運用・管理等

システム運用支援業務・データセンタ業務等の増加により、増収

システム販売

GIGAスクール関連のネットワーク工事、DX関連の大型プロジェクトの受注や前年度まで低迷していた画像処理システムの回復により、増収

ソフトウェア開発

前年度から継続している大型プロジェクトが終盤に向かい売上減、顧客の設備投資の延期等による受注減により、減収

機器等販売

収益認識会計基準等の適用により、減収

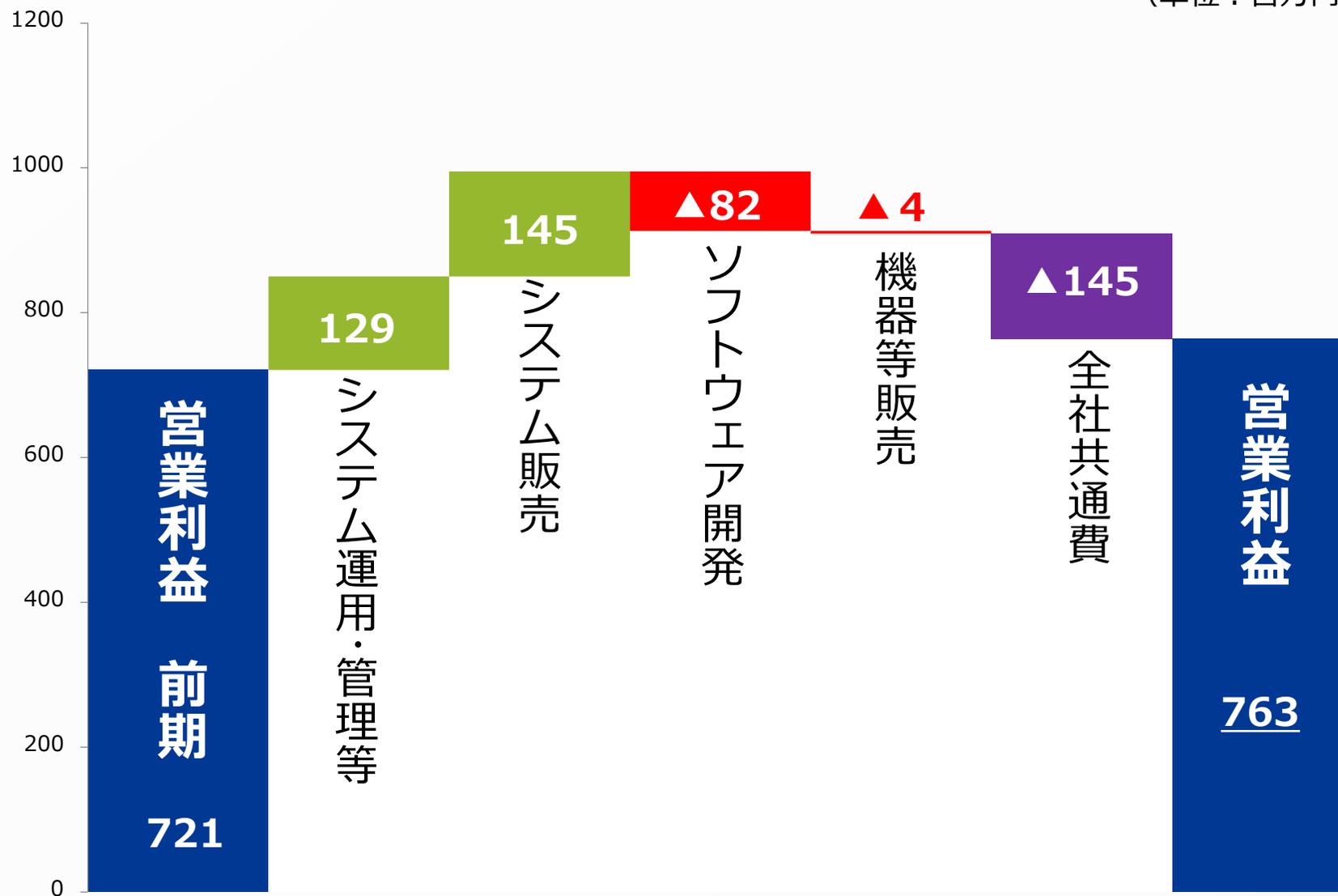
(単位：百万円)

区 分	2021年3月期 セグメント利益 (A)	2022年3月期 セグメント利益 (B)	前期比 (B - A)	増減率
システム運用・管理等	960	1,090	129	13.5%
システム販売	203	348	145	71.1%
ソフトウェア開発	405	323	▲82	▲20.4%
機器等販売	224	219	▲4	▲2.1%
全社共通費 (販売費・一般管理費)	▲1,073	▲1,218	▲145	▲13.6%
合 計	721	763	42	5.8%

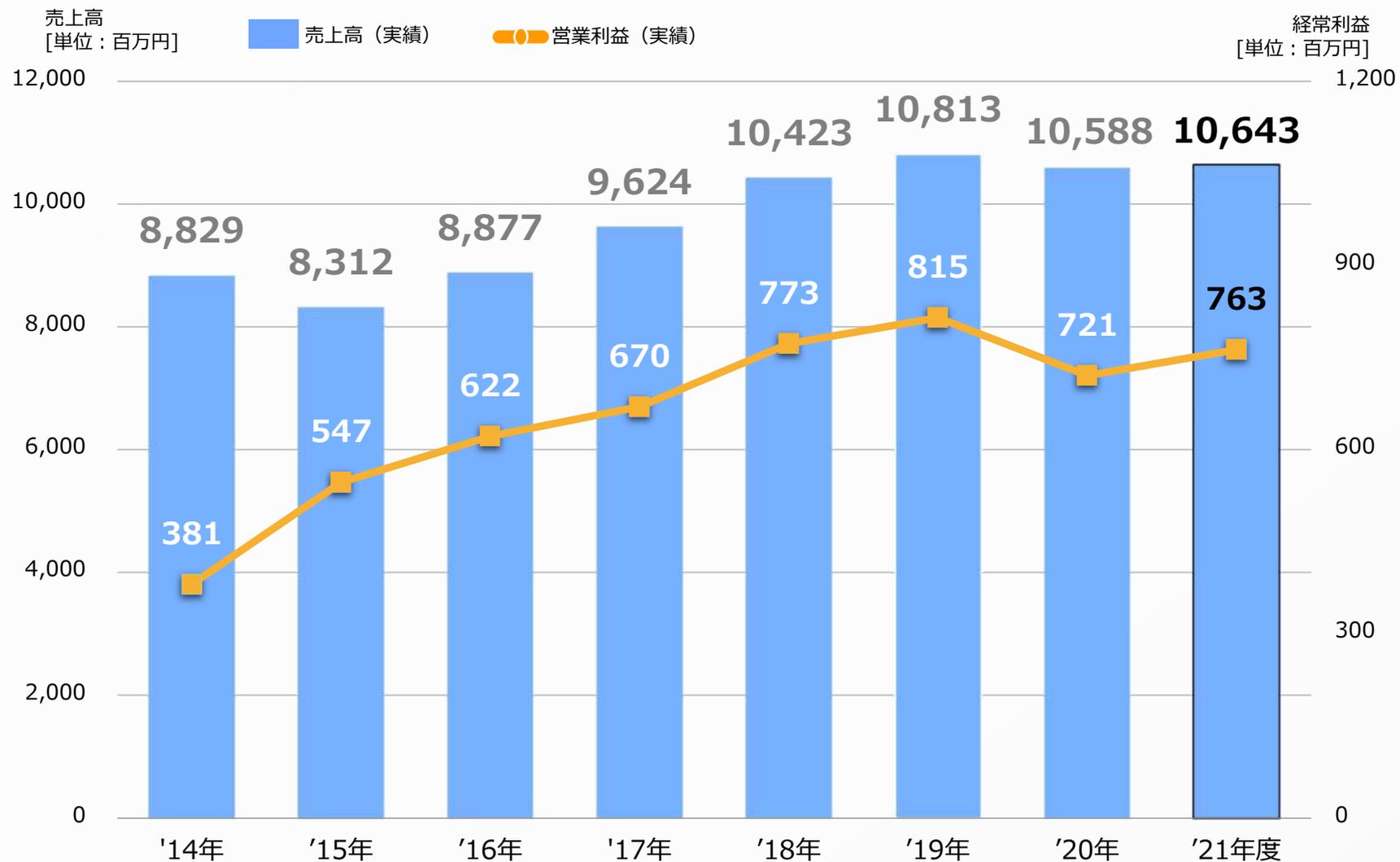
# 営業利益分析



(単位：百万円)



# 連結 損益状況の推移



## 連結 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	5,647	流動負債	2,578
		固定負債	564
		負債合計	3,142
固定資産	3,063	純資産の部	
		純資産合計	5,568
資産合計	8,710	負債・ 純資産合計	8,710

## 連結 貸借対照表

(単位：百万円)

		負債の部	
流動		流動負債	2,578
		固定負債	564
		負債合計	3,142
		純資産の部	
固定資産	3,065	純資産合計	5,568
資産合計	8,710	負債・ 純資産合計	8,710

【自己資本比率】

56.3% → 63.9%

【純資産合計】

前期比4.7%増加

## 連結 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	5,647	流動負債	2,578
		固定負債	564
		負債合計	3,142
		純資産の部	
		純資産合計	5,568
資産合計	8,710	負債・ 純資産合計	8,710
<b>一株当り純資産</b>		<b>3,763円 33銭</b>	

【1株当たり純資産】

前期比で 169円 68銭 増



# 2023年3月期 業績予想

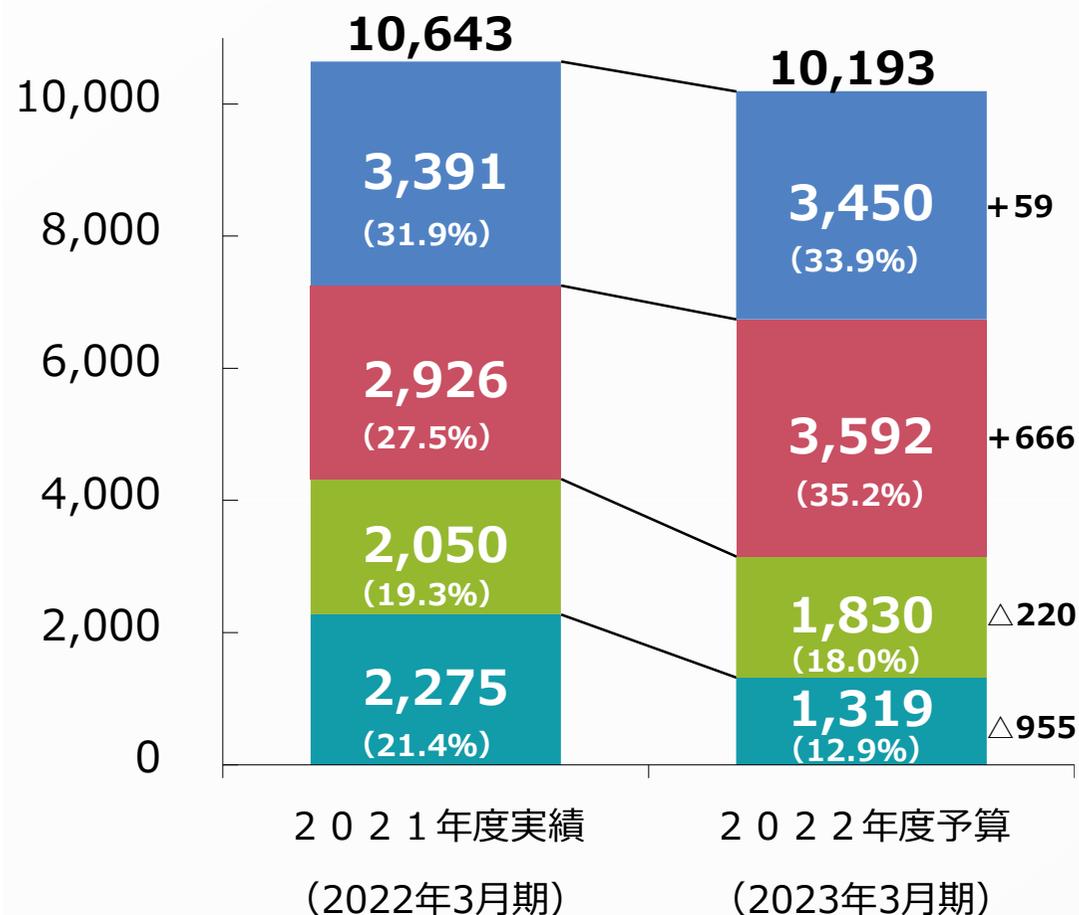


## 前期実績との対比

決算年度 (単位：百万円)	2021年度 (2022年3月期) 実績 (A)	2022年度 (2023年3月期) 予想 (B)	前期差異 (B-A)	増減率
売上高	10,643	10,193	▲450	▲4.2%
売上総利益 (利益率)	2,618 (24.6%)	2,758 (27.1%)	139	5.3%
販売管理費	1,855	2,022	167	9.0%
営業利益 (利益率)	763 (7.2%)	736 (7.2%)	▲27	▲3.6%
経常利益 (利益率)	771 (7.2%)	741 (7.3%)	▲29	▲3.9%
当期純利益 (利益率)	521 (4.9%)	509 (5.0%)	▲11	▲2.2%

**連結 事業4区分別売上高の前期比**

[単位：百万円]


**システム運用・管理等**

システム運用支援、保守・保守関連を中心に前期並みに推移する見通し

**システム販売**

DX関連の大型プロジェクト獲得（インフラ事業）やコロナ禍で低迷していたセンシング事業、医療事業の業績回復等により増収

**ソフトウェア開発**

前期から継続している大型プロジェクトが終盤に向かい縮小により減収

**機器等販売**

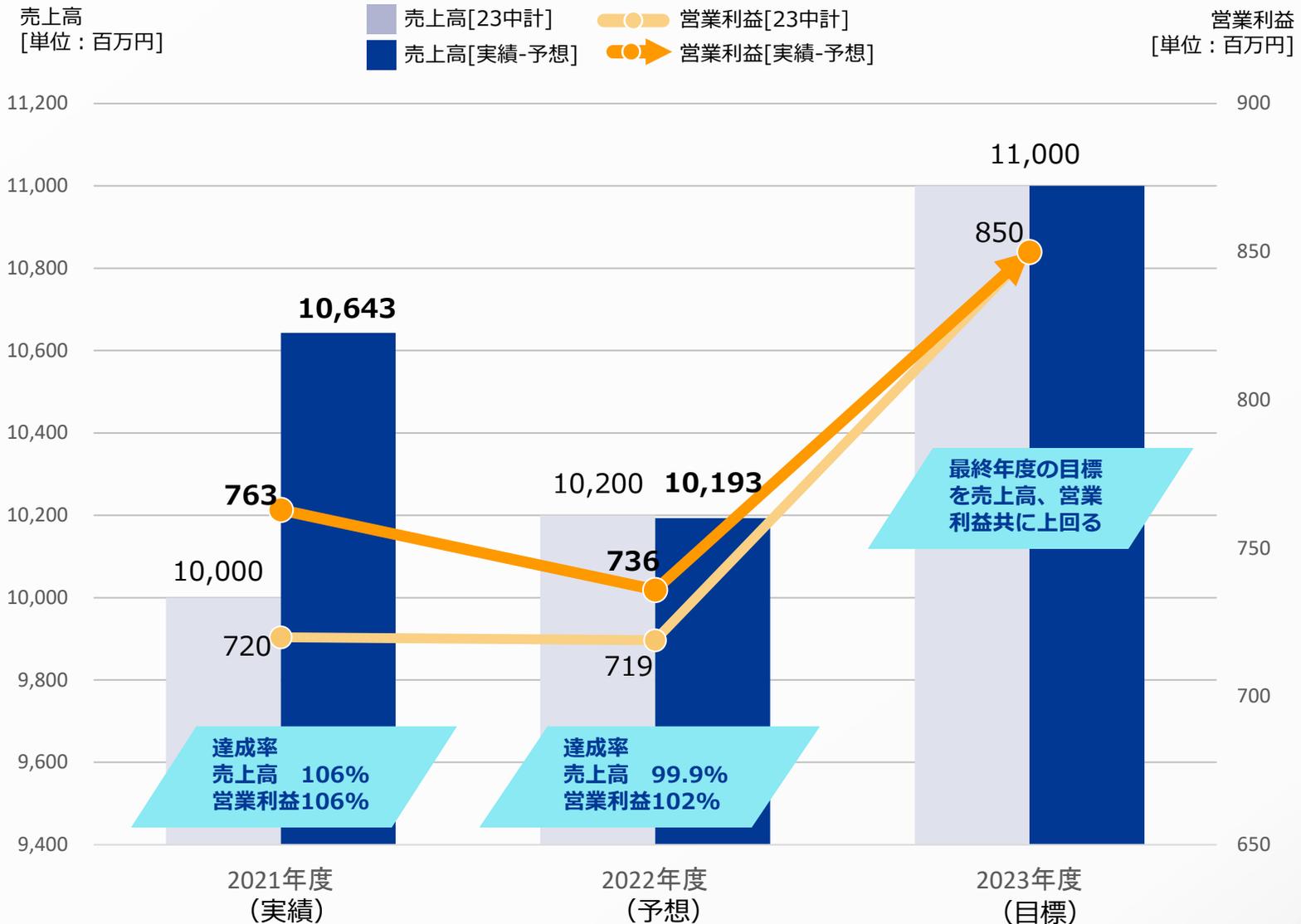
システムベース社のGIGAスクール（特需）の反動を受け減収



# 23中期経営計画の 進捗状況と今後の取組み



連結



「攻め」～コスト・人材を注いでチャレンジし、  
発展に直接つなげる

- ①強みを知り、強化する(得意分野を伸ばす)
- ②既存技術の展開(応用力で分野拡大・他社との協業など)
- ③新規技術の獲得(基礎技術・得意分野・ニッチ)
- ④営業力の強化(効率的な営業・組織力)
- ⑤利益率の向上(人工当たりの利益向上)
- ⑥開発作業の変革(品質向上・効率化・工程間意思疎通・顧客コミュニケーション・R-ロード)

## 「守り」～管理強化とそれを下支えする制度の構築、次の成長の準備

- ① **品質向上** (全部門が対象、社内でも「次工程はお客様」の精神)
- ② **顧客満足度の向上** (顧客の満足度(=不満度)を感じ取る)
- ③ **ガバナンス強化** (各部門の統制・管理 問題点が埋もれない仕組み)
- ④ **不採算案件の極小化** (=上記①②③)
- ⑤ **安全衛生の徹底と社員の健康度向上**
- ⑥ **リスク管理の強化** (社員一人一人がリスクを認識できるように)
- ⑦ **成長・教育・やり甲斐の充実化**

システム運用・  
管理等

- データセンタ事業の推進
- 大規模システム再構築による新受託業務の効率化及び安定運用

## システム販売

- センシング事業  
主力商品の拡充、既存顧客以外の安定顧客の獲得、  
西日本・中部地区における受注活動の開始
- 生コンクリート業界向け事業  
更新需要の確実な受注、商品価値の向上と競争力強化、  
< Iot・画像・AIを活用した新計量制御システムの開発 >

ソフトウェア  
開発

- 大規模システム再構築の計画と完遂
- ERPビジネスの確立
- 熊谷センターにおけるソフトウェア開発センターとしての取組み

## 機器等販売

- リモート機器等の販売推進

システム運用・  
管理等

- データセンタ事業の推進
- 大規模システム再構築による新受託業務の効率化及び安定運用

## 【データセンタ事業】

- ・ クラウドサービス基盤の増強、拡大を実施中
- ・ 今後はデータセンタの大規模設備更新も考慮し、パブリッククラウドを利用したサービスの拡大、他社データセンターを利用したサービスの商品化準備

## 【新受託業務の効率化と安定運用】

- ・ 大規模システム再構築プロジェクトにシステム運用者を参加させ、新受託業務の理解を深め、新技術を取得し、本稼働後の安定運用につなげる
- ・ RPAを活用した品質向上、効率化に加え、コミュニケーションツールの活用により顧客、開発部門との情報共有、迅速な意思決定により、効率的な運用を実現

## システム販売

## ■ センシング事業

主力商品の拡充、既存顧客以外の安定顧客の獲得、  
西日本・中部地区における受注活動の開始

## ■ 生コンクリート業界向け事業

更新需要の確実な受注、商品価値の向上と競争力強化、  
＜ Iot・画像・AIを活用した新計量制御システムの開発＞

## 【センシング事業】

- ・ 主力商品の円筒形検査機のノウハウとAI技術を盛り込んだ「AIシート  
外観検査装置」を新たにラインナップ
- ・ 医療関連企業に、業界初の試みを支援する装置を販売  
同装置の大型リピート案件も受注でき、来期以降も継続的な受注予定
- ・ 物流業界大手の新しい主力商品であるピッキング装置に、当社ロボット  
ビジョンシステムが採用、大規模案件を受注し、今後も継続的な受注が  
期待できる

## 【生コンクリート業界向け事業】

- ・ 最新のセンシング技術搭載した「ヒューマンエラー防止・ユーザアシス  
ト機能・経験値を蓄積する」をコンセプトに次世代計量制御システムを  
リリースし商品価値向上と競争力の強化を図る（2023年第1Q目標）

## ソフトウェア 開発

- 大規模システム再構築の計画と完遂
- ERPビジネスの確立
- 熊谷センターにおけるソフトウェア開発センターとしての取組み

### 【大規模システム再構築】

- ・ 前年度より継続の大規模システム再構築は、順次本稼働中

### 【ERPビジネス】

- ・ ERPパッケージのライセンス販売に加え、大型導入プロジェクトを推進中
- ・ パートナー各社と連携し案件開拓、技術者スキル向上に取り組み中

### 【熊谷センターの取組み】

- ・ 人材を確保しやすい地域性を活かして体制を拡大、多様な開発言語への対応、コミュニケーションツールを活用し、本社案件のシステム開発に取組中

## 機器等販売

- リモート機器等の販売推進

- ・ 太平洋セメントグループ各社を中心に、在宅勤務の普及に向けて販売推進中

## 健康経営の推進

- ・ 健康優良法人の認定及び継続
- ・ 安全衛生の徹底と社員の健康向上

## 人事諸施策の実施・検討

- ・ 24年度新制度移行に向け役割等級制度改定の検討開始
- ・ 経験力、成長、職位向上を実感できる仕組み

## コーポレートガバナンス機能の強化

- ・ スタンダード市場で求められるコーポレートガバナンス・コードへの対応



# トピックス(当社商材のご紹介)



## PARCS Suite<sup>®</sup> WATCHER

日常の監視作業を **IoT** により **自動化** し、**負荷を軽減**！



- ① メータ読取、環境センサーにて様々な数値を取得可能！
- ② 異常検知時に警報表示・メールでの通知も可能！
- ③ 監視作業の自動化、24時間365日いつでも稼働可能！



もう、遠いところまで  
見に行く必要はありません



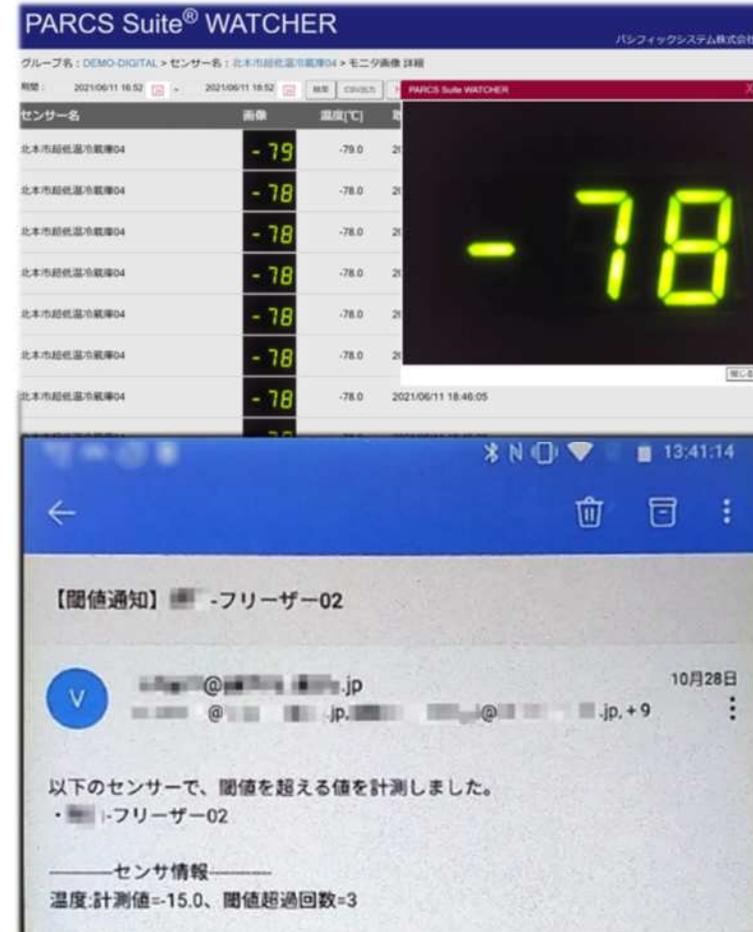
## 👉 導入例



埼玉県北本市様

## 👉 主な実績

- 多数の市役所・ワクチン接種会場
- 大手素材メーカー工場にて導入検証中
- 公的研究機関 約100台 導入中



PARCS Suite® WATCHER

グループ名: DEMO-DIGITAL > センサー名: 北本市超低温冷蔵庫04 > モニタ画像 詳細

期間: 2021/06/11 18:52 - 2021/06/11 18:52 検索 設定

センサー名	画像	温度[℃]	計測
北本市超低温冷蔵庫04		-79	-79.0 20
北本市超低温冷蔵庫04		-78	-78.0 20
北本市超低温冷蔵庫04		-78	-78.0 20
北本市超低温冷蔵庫04		-78	-78.0 20
北本市超低温冷蔵庫04		-78	-78.0 20
北本市超低温冷蔵庫04		-78	-78.0 20
北本市超低温冷蔵庫04		-78	-78.0 2021/06/11 18:46:05

【閾値通知】 -フリーザー02

10月28日

以下のセンサーで、閾値を超える値を計測しました。

- ・フリーザー02

——— センサ情報 ———

温度:計測値=-15.0、閾値超過回数=3

# AI評価ツール

画像をご準備いただき僅か2クリックで AI を体験できます！



**POINT!!**

1

## 高性能PCは不要！

普段お使いのビジネスPCでAI評価ツールをご利用できます。

2

## ランニングコストはゼロ！

月額料金・年間料金は、いたしません。1度の買いきりで何度もAI学習・評価が行えます。

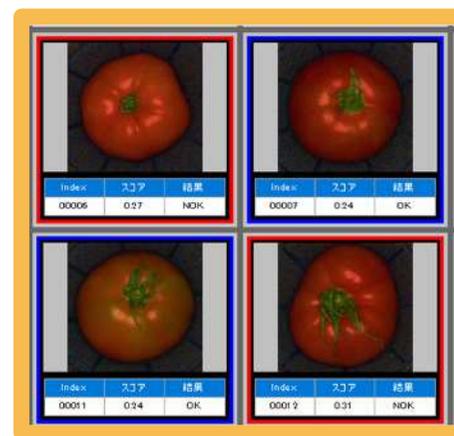
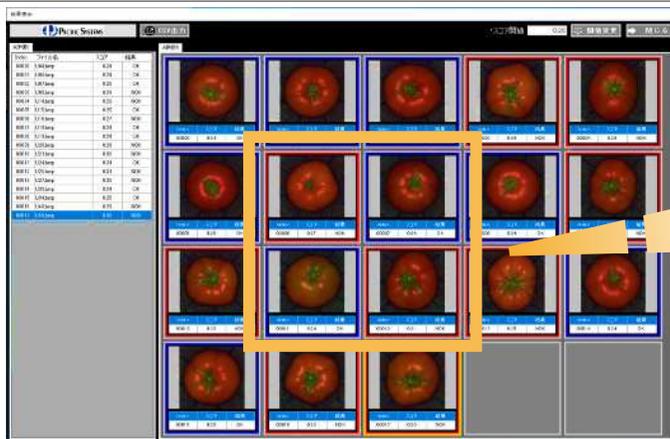
3

## 難しい操作を全てカット！

わかりやすいGUIにより、PC操作に不慣れな方にとっても使いやすい操作性を実現しました。



## 評価の仕組み



AIによる判定が簡単に可能！

# AIシート外観検査装置

**POINT!!**画像処理+AIで **次世代型検査** をご提供します！

①

**2次判定にAIを採用！**

従来の画像処理判定に加えてAI判定を搭載しました。

②

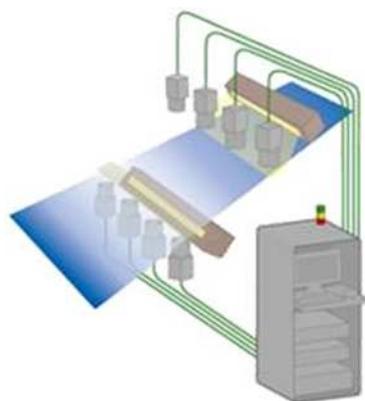
**複数の光学系を自由に組み合わせ可能！**

対象となる材質・欠陥種に適した光学系を組み合わせることで総合的な検査を実現します。

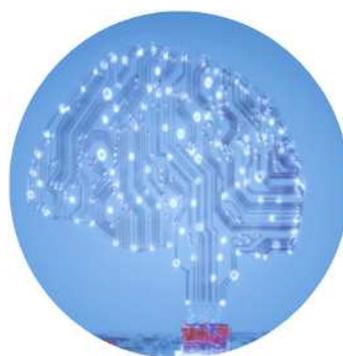
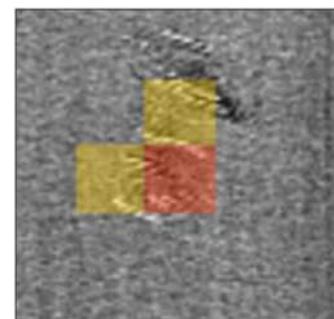
③

**省スペース化を実現！**

1つのカメラ × 複数照明の組み合わせで装置スペースを大幅に削減可能です。

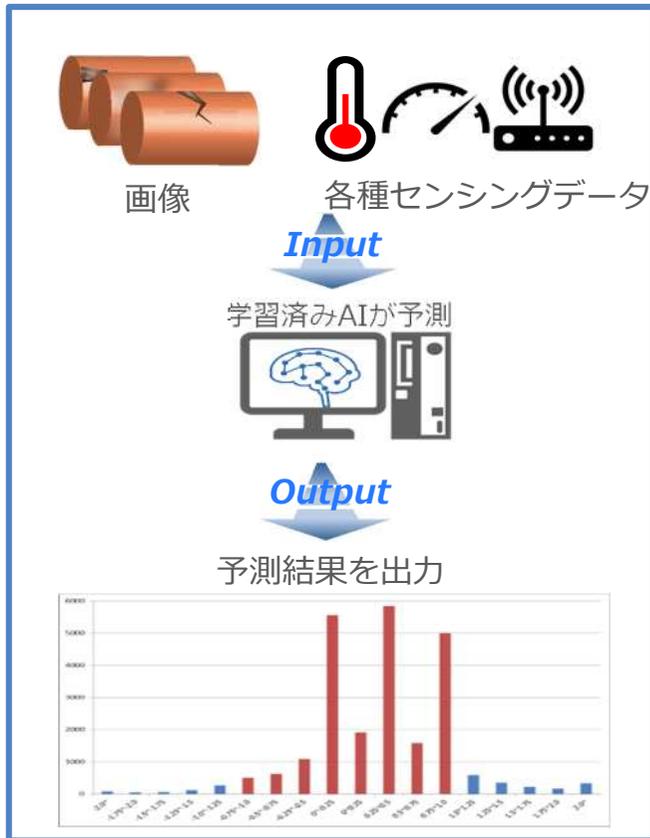
**検査の流れ**

画像入力

画像処理  
AIによる2次判定限界を超えた  
検出性能の実現！

## AIの実績

AIを活用した分析・評価を基に、2017年から**多くのAI装置**を導入しています！



主要な導入実績

顧客・業界	種類	実績
繊維・化学	欠陥検出 (キズ、ムラ等)	導入
建設	粒径分類	導入
建設	岩種分類	導入
建設	加工具合分類	導入
繊維・化学	シートムラ検出	導入
繊維・化学	欠陥検出 (キズ、異物)	導入
繊維・化学	欠陥検出 (キズ、ムラ)	導入
鉄鋼・加工	文字分類	検証中
鋳業	異物検出	検証中
建材	欠陥検出 (穴、キズ)	検証中

# 工場をスマートファクトリー化

IoT 技術、AI技術とネットワーク技術で、モノづくりのスマート化！

## POINT!!

- 1 離れたところからセンサーを用いてデータの取得が可能！**  
遠方の監視対象、人の立ち入りが制限される監視対象も容易に監視できます。
- 2 設備の状況をリアルタイムに把握。異常検知時に警報表示・通知！**  
故障予測、計画的な保全活動が可能です。異常発生時も素早い対応が可能です。
- 3 監視作業の自動化！**  
現場の巡回業務を減らし、労働者の負担を軽減します。



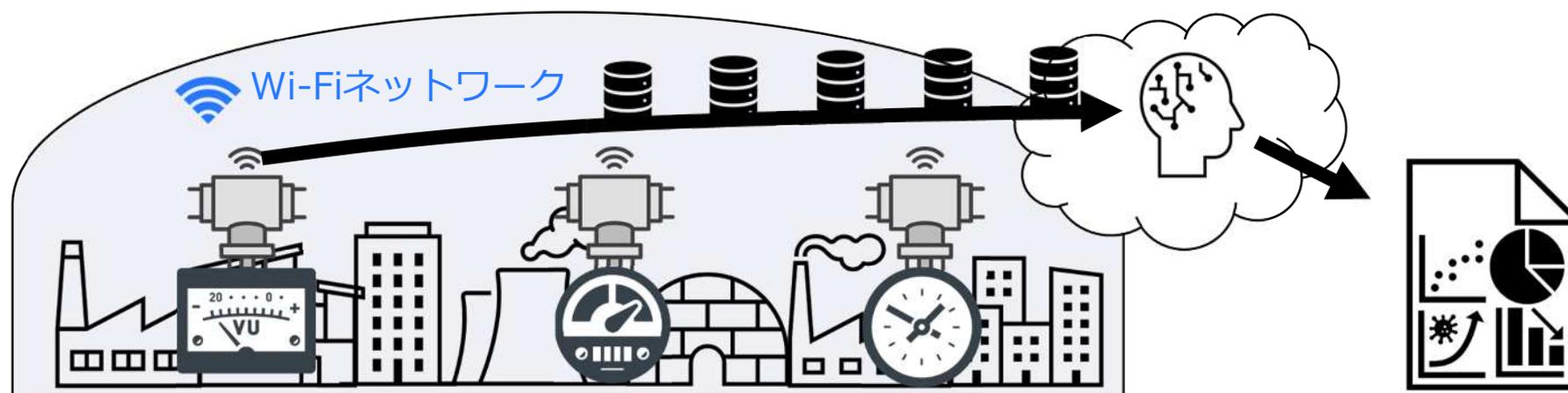
# 工場IoT 無線LAN

DXを推進するため工場製造現場にWi-Fiネットワークを整備

Wi-Fiの高速ネットワークにより、ストレスのない通信環境を実現！



- 1 **製造現場を網羅したWi-Fiにより設備データの収集が容易に！**  
光ケーブル、LANケーブルの工事が不要で、IoTセンサーなどからデータの収集ができます。
- 2 **製造現場でのタブレット利用、リモート会議など多岐にわたる活用**  
リモート会議ツールで、現場の若手を熟練者がリモートでサポートできます。



## 工場IoT ドローン活用



- 1 工場設備の検査にドローンを活用**  
可視光カメラによる外観検査、サーモカメラによる温度検査を実現します。
- 2 定点カメラを複数設置する必要がありません**  
カメラによっては設置が高額になるケースもあり、ドローンによるコスト削減を実現します。
- 3 工場IoTアプリケーションとデータ連携**  
工場IoTアプリケーションにデータを取り込み、他のセンサーデータと同じ画面で監視できます。



## 工場IoT システム

### 詳細確認画面 イメージ



### 現場

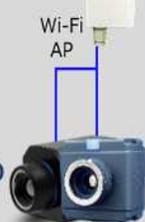
#### 各種センサ

工場設備の  
・温度/圧力  
・タンク水位  
・流量  
の監視を自動化



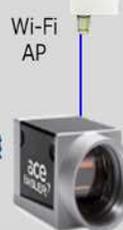
#### サーモカメラ

工場設備の  
温度監視



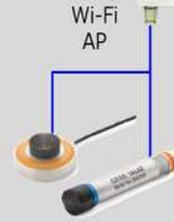
#### 監視カメラ

設備  
・動作状態  
・劣化  
の監視



#### 音響

機械動作音  
から  
劣化の検知



#### ドローン

高所の点検



## 最後に

新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢等の影響で、不透明な状況が継続すると予想されるが、23中計の重点施策を確実に実行し、2022年度の連結売上高・営業利益の23中計計画の達成に努めてまいります。



### <免責事項>

本開示資料に記載されている将来の計画等に関する内容につきましては、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき判断した予想であり、リスクや不確定要素を含んでいます。

従いまして、記載されている将来の計画数値、施策の実現を当社として確約あるいは保証するものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。